

⑦

故水原衛作紀念

【解説】

水原衛作（旧姓 柿崎）は代々津輕藩お抱えの庭園師であった柿崎家の長男として天保十三年（1842）に弘前に生まれた。衛作は安政四年（1857）初冬、十五歳のとき足輕の父の許を去り、独り江戸へ旅立ち造園の修業をした。

江戸では造園術の修業と人生の生き方を学んだが、その頃学んだ『山水深秘・造庭図解全』がのちの合浦公園建設の基礎となっていると謂われている。

合浦公園の創設は明治十三年の衛作の計画によるもので、時の県令山田秀典の声援と木村莊助、三橋三吾、浅井辰五郎、永井伝蔵、村林勘六等の熱心な援助の下に期間三ヶ年、総予算一百万円の構想をもって明治十四年工事に着手した。

青森から造道に通じる並木街道に津輕歴代の藩主が嘆賞を惜しまなかったという三誓の松、相生の松の老松がある。この松を中心とする一万一千五百余坪の狐狸の住む原野が公園建設の予定地であった。

山田県令の計らいで園地購入の寄付は着々と集まったが、明治十五年一月県令の急死にあい募金は停滞して造園に一大支障を来した。

責任感の強い衛作は母や妻と共に町から園地の小屋に引き移り、一家をあげて終日荒地を拓き、石を運び、草木を植えて飽きることを知らなかった。ついには過労のために衛作は病床に伏したが、私財はことごとく造園の資に投じ、今は治療の費用もなく、一家窮乏のうちに明治十八年四月十四日悲願の公園完成を見ることなく、四十四歳でこの世を去った。

母は事業半ばで倒れた我が子の霊を慰めるため、自分の悲嘆も忘れて衛作の弟巳十郎の奮起を促した。

巳十郎は母の真心と亡兄の悲願とに励まされて造園に専念すること十年、明治二十七年に至つてようやく公園を完成し、これをことごとく青森町に寄付した。

合浦公園は実に水原一家の献身的な奉仕と血の滲む努力によって完成したものです。



明治23年（1890）11月 建立

〔建立者〕 木村莊助 三橋三吾

戸田茂三郎 永井伝蔵

遠藤甚助 柿崎巳十郎

〔題字・書〕 題字 佐和 正

書 松澤光憲

【石碑に彫刻されている文字】

（前面） 故水原衛作君紀念之碑

（裏面） 青森県知事従四位勲五等

佐和 正 題字

青森県書記官正七位

松澤 光憲 書

誅荊棘於其剪鋤茅筴於粟列妻覆簣而老母助之先鷄而起戴星而初休是追語合浦公園開設當日也初衛作氏首唱公園也応者甚夥醵金不多典衣壳器不給故一取之自家勞力因古松三両以粗成錦園之趣自明治十三年創立至十九年病没五歳一日爰築圓理可謂勉哉嘗曰寧供身於公園犧牲不欲墜我志也故能翻狐狸婆娑之場以為靚粧優遊之地放狼嗥豺吠之声而今聞敲楨而狂叫彈絃而艷唱之曲抑是誰之賜也哉有志家相謀今茲建石於本園以表不能忘其誼也嗚呼余嘗見鶴翎瀑結構圖美衛作氏属續前二月所平製假仙露娥眉乎柳暗花明之間数道飛泉穿香雲暖雪而下奇石怪岩遠以澄冽之潭而抵石洲渚之安排極其心匠使人有縮蓬壺之嘆焉今也則圓矣誰繼其志者君為人澹泊長理園善俳句俳名鬼笑明治二十三年十一月青森葛西於免撰

（側面） 發起人

木村莊助

三橋三吾

戸田茂三郎

永井伝蔵

遠藤甚助

柿崎巳十郎